

# 黒毛和種における1ショット過剰排卵処理法

岡山県農林水産総合センター畜産研究所 改良技術研究室 中原 仁 小田 亘 立川 優子

## 背景および目的

黒毛和種における過剰排卵処理は、一般的に豚脳下垂体由来卵胞刺激ホルモン（FSH）を1日2回、3日間にわたり漸減投与する方法が主流となっている。しかし、この方法では牛に対するストレスが大きい上、ホルモン処理も煩雑でありフィールド技術者から過剰排卵処理の簡易化が求められている。

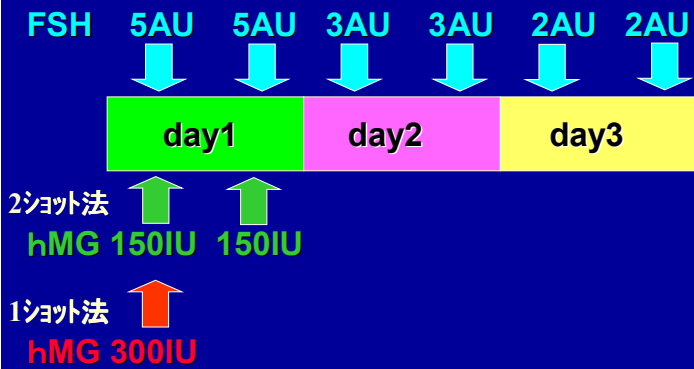
当所では、ヒト閉経期性腺刺激ホルモン（hMG）が牛の過剰排卵処理の簡易化に有効であることを報告した。しかしhMGは人体薬であり、動物薬としての認可がないため、一般的には利用されていないのが現状である。

そこで、FSHを用いた1ショット法についてhMG1ショット法と比較し、過剰排卵処理の簡易化に有効であるかを検討した。

## これまでの取り組み

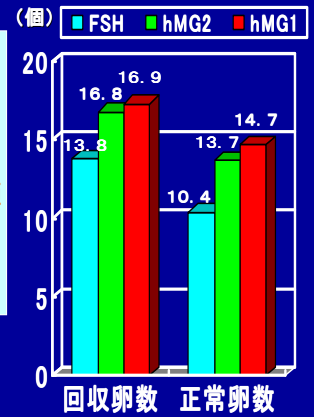
### hMGによる処理の簡易化

#### FSH漸減投与法（従来法）



- hMGの2ショット法および1ショット法は、FSHの漸減投与法と同等の卵回収成績
- 正常卵の品質も同等
- hMGの投与は、生食に溶解し頸部皮下に総量300IU

（第15回日本胚移植研究大会）



## 方法



### 1ショット過剰排卵処理方法

## 結果

### 処理別採卵成績

	推定黄体数	総採卵数	正常卵数	Aランク卵数	変性卵数
hMG区	21.1±11.3	19.3±14.2	13.8±10.3	7.6±6.7	6.0±5.8
FSH区	22.9±10.4	21.8±12.0	15.0±10.7	11.3±9.3	6.8±4.4
(参考) 従来法	28.7±12.4	28.2±12.9	15.2±11.3	9.5±7.2	13.0±12.1

(mean±SD)

## まとめ

FSH1ショット法は、hMG1ショット法と同等の採卵成績が得られ、FSH1ショット過剰排卵法で、処理の簡易化が可能であった。

牛に対するストレスおよび技術者の時間的拘束を大幅に低減できることで今まで現地採卵を行っていなかった地域にも普及しやすくなり、優良牛の効率的生産が期待できる。